

旧 山口蓬春邸など登録へ

文化審 答申 国有有形文化財に県内5件

国の文化審議会は18日、登録有形文化財(建造物)に山口蓬春記念館(旧山口蓬春邸)主屋と画室(葉山町)など県内5件(3カ所)を登録するよう永岡桂子文部科学相に答申した。登録されると県内の国登録有形文化財は308件(160カ所)となる。

県内で登録を受けたのはこのほか、松永記念館無住庵(小田原市)、本多家住宅(旧中上川家住宅)主屋、本多家住宅(旧山本家住宅)門と塀(いずれも鎌倉市)。

間棟や風呂棟を増築した。繊細な建具や床の納まりで和室とベランダの連続性を実現している。主屋西側の画室は1953年に吉田の設計で増築され、柱や梁を壁面で覆い隠す「大壁造り」や天井までの引き込み障子などが目を引く。

開放感あふれる山口蓬春記念館画室
=葉山町一色(同町提供)



広域

鎌倉の旧別荘地に残る本多家住宅の主屋
=鎌倉市小町2丁目(同市提供)



松永記念館無住庵は、「電力の鬼」と称された実業家松永安左エ門の田舎家風茶室。民家の古材を利用して55年ごろ建造したとみら

れ、2020年に現在の場所へ移築復元した。本多家住宅主屋は1929年に建築された、鎌倉の旧別荘地に残る近代和風住宅。2階南面にガラス屋根

のサンルーフを配した。敷地北側に位置する門と塀は51年に建造され、塀は真壁造、壁は漆喰仕上げの洗練された造りとなっている。(報道部)

北方領土問題 理解を 北海道の高校生と意見交換



中高生による北方領土問題の意見交換会
=ワークショップ横浜

北方領土問題への理解を若い世代に広げようと、神奈川県と北海道の高校生が18日、オンラインで意見交換した。北方領土返還要求運動神奈川県民会議と県北方領土問題教育者会議が今夏、県内中高生を対象に募集した北方領土問題をテーマにした作文コンクールの

入賞者14人が参加。地元でこの問題に向き合う北海道根室高校の生徒3人とオンラインで歴史的な経緯や返還交渉の実情などについて意見交換し、理解を深めた。北海道根室高校の生徒は元島民の平均年齢が86歳を越えたことを踏まえ「一刻も早い返還実現が重要だ

が、解決の糸口がつかめない中、若い世代で返還運動への関心が薄れつつある」と危機感を伝えた。神奈川県の中高生からは、ロシアのウクライナ侵攻が返還交渉に与える影響を問う声などが上がった。

作文コンクールで最優秀賞を受賞した新高羽高校1年の石原美優羽さん(16)は「私たちの世代が問題の理解を深め、伝えていく役割を果たさなければならぬ」と感じた」と話した。

県北方領土問題教育者会議の松本靖史会長は「返還への道のりは厳しいと言わざるを得ないが、平和的な解決に向け、若い世代が正しい認識を持って取り組んでいくことが重要」と訴えた。

作文コンクールの入賞者は本来、北海道を訪問して北方領土の現状を学ぶ予定だったが、新型コロナウイルス禍で見送られ、代わりに今回の意見交換会が開催された。

(大槻 和久)